

不安のグルーピングを解消したい

2023・5・11 重枝 一郎

「語り」の重要性

HRや授業、部活動等、あらゆる場面で最初に目標を共有することは、言うまでもなく大事である。また、その時の、クラス担任、教科担当、部顧問の「語り」は大事である。

学級づくりや授業がうまくいっていないのは、その「語り」が生徒たちに理解されていないことが大きい。それは、教師自身が建前のいいと思い込んで話しているから失敗する。

学級づくりでエンカウンターやグループワークトレーニングをするとき、授業での話し合い活動をするとき等、それを教師が、「考え方」ではなく「テクニック」としてとらえていると、うまく生徒に伝わらない。

生徒は、教師の語る言葉だけで理解しているのではなく、表出するもの（表情、しぐさ等）すべてのトータルで理解している。すなわち、その教師の「人間性」である。

例えば、新しい校長が赴任してきたとき、その校長は方針を語る。これを先生たちは言葉で理解するか？ おそらくその「人間性」を探ると思う。言葉はおぼえていないが、その校長の人間的な雰囲気はおぼえている。生徒も同じ。「語り」とは自分の「考え方」「人間性」を伝えるように話さなくてはならない。

不安のグルーピングを解消する

集団の中で、「個」が殺されるつながりが「同調」である。例えば、少数の「仲よしグループ」は、誰かの悪口を言い合い、共通の秘密をもつことでつながっていたりする。このような生徒たちは、いつも一緒にいるが、「協調」関係ではなく「同調」しているだけなので、本音はかくしていたり、陰湿な雰囲気を醸し出していたりする。このような空気を生まないためにも、先手を打つ必要がある。だからこそ、「人間関係向上プログラム」のイメージが大切である。

例えば、「語り」として、「（「同調」と「協調」の違いを話した後）先生は、陰湿な雰囲気のグループが嫌いです。そういうグループにいる子は、ひとりになることが怖くて、相手に合わせて誰かの悪口を言ったり、秘密をつくったりしています。そして、学級に陰湿なおいをまき散らしていきます。そんな同調グループを自分の居場所にしなくて、お互いの悪い面を注意し合える関係になってほしい。学級のいろいろな人たちとつきあえるようになってほしいと思います。」。

学級の中で、特定の生徒同士で固まってしまわないように、学級や学年の生徒の実態に合わせて計画的な取組をする。それが、「人間関係向上プログラム」である。まずは、学年初めの4、5月の実践プランが重要になる。この時期に何も取組がなければ、「不安のグルーピング」で過ごす1年間が決まってしまうかもしれない。できる限りさりげなく、いろいろな友だちと交流をさせることで、認め合う関係づくりの輪を広げておく。

「このメンバーでないとダメだ」と思う小集団グループがたくさんでき、その小集団が閉じてしまうと、クラスがひとつにまとまらない原因になる。私がよく話していたのは、「年度初めは、かき玉汁を混ぜるがごとく」と言っていた。特定の生徒同士で固まってしまわないように、生徒同士を交流させる。

「人間関係向上プログラム」では、集団活動を通して「ルール」と「リレーション」の両方を同時に育てる。そのために、学校のすべての教育活動を関連付けながら、「かかわりの質」を高めるプログラムを実行する。人間関係がよければ、結果の質が高まる。

『人間関係の質→思考の質→行動の質→結果がでる→人間関係の質（スパイラル的に）』 そのことを生徒たちに、日常的に話し、意識させていく。

人間関係向上プログラムの実際

(平成 21 年度 福岡市立千代中学校研究紀要から抜粋)

月	生徒の様子	その月の主な実践	ねらい
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学級開き ・相互依存または孤立・期待感 ・集団の意識薄い ・個人が目立つ 	<ul style="list-style-type: none"> 『班長会で班のメンバーを決めよう』 『個人の目標を立てよう(応援メッセージ)』 『〇〇中タイタニック』 『ソーシャルスキルについて』 『サイコロトークング』 	<p>リーダーに自覚をもたせ、明るい中にも落ち着いた雰囲気の中で学習ができる班構成を考える。また、一人一人の存在を認める話し合いをする。</p> <p>友だちの目標を読み、それを応援することで他者理解の雰囲気をつくる。</p> <p>入学したばかりの仲間と良好な人間関係をつくるとともに、全体的に安心感をつくる。</p> <p>小学校からの心配を題材に、今までの自分たちを振り返り、ソーシャルスキルの必要性を実感させる。</p> <p>テーマに沿って自分の思っていることを素直に表現する。そのときの聞き手の態度が話し手に大きく影響することを意識させる。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの成員がよく知り合う時期 ・五月病 	<ul style="list-style-type: none"> 『1年後の自分へ』 『1年後の友へ』 『トラストフォール』 『進化じゃんけん』 『指で集まれ』 『心の(言葉の)キャッチボール』 『もう一度班づくり』 『あなたがいて私はうれしい』 『 ~ をよくする人』 	<p>自分の気持ちを積極的に出し、また友だちからの気持ちを受けとることで、つながりを実感させる。</p> <p>集団の雰囲気をなごませ、みんなと活動しようという気持ちにさせる。繰り返し行う中で成長の評価を入れ、ソーシャルスキルと関連付けていく。その時期に必要な生徒指導にもつなげる。</p> <p>言葉の言い方で受け手がどのように感じるのかを知り、自分の言葉の使い方について目標を立てる。</p> <p>「アサーションスキル」の獲得を目指す。説得力ある言い方や態度を学び、リーダー育成をする。</p> <p>自己肯定感をもたせ、他者理解の心を育む。先生、生徒のリレーションづくりにもなる。</p> <p>クラスを構成し、作りあげていくひとつの存在として、どのような態度と行動が必要なのかを知る。また、グループワークを通してそれらを自分のスキルとして習得していく。</p>
6			

※活動した後の振り返りで「ありがとう探し」「いいところ探し」「応援メッセージ」をする。それをクラス全体でシェアリングする。